

症例報告・研究論文書き方講座 「内部障害の症例検討」

埼玉県理学療法士会 学術局理学療法編集部
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科
木戸聰史

症例検討の論文化

「職場や学会では症例検討を行って報告しているが、論文化するモチベーションが湧かない」

「執筆してもよいがどのような内容が投稿に適しているのか」？

「執筆・公表するメリットは理解しているが、
デザイン立案、データ収集および執筆方法を
どのようにすればよいのか」？

症例報告を論文化する意義

- 論文として形あるものに残す：
論文は保存性に優れているため、後々まで利用できる
 - 書いた論文は既存の知識をアップデートする
 - 多くの臨床家・研究者に読まれる、
 - そして実践に移される
 - 多くの患者のリハビリテーションを発展させる可能性を持っている。
- 査読の過程で曖昧さ、論理の飛躍、解析が足りないところなどをブラッシュアップできる

症例報告とは

「理学療法-臨床・研究・教育」投稿規定より

症例検討について

- 症例検討では、単一または少数症例を対象とした経験を科学的に系統的に報告する
- 標準的な治療経過の症例は、学術誌の症例報告には適さない

内部障害における報告の例

病態や経過が稀な症例

- リハビリテーションの効果が確立されていない症例
(例えば、閉塞性細気管支炎・薬剤性心筋症など)
- 病期においてリハビリテーション効果が確立されていない症例
(例えば、気管支拡張症・喘息の増悪期など)
→ リハビリテーションへの新たな適応を示すきっかけとなるかもしれない

内部障害における報告の例

病態や経過が稀な症例

- 重複障害

(心臓機能障害、呼吸器機能障害、腎臓機能障害、肝臓機能障害、運動器障害、脳血管障害など)

→ 重複障害に対する評価や介入の基準を決定することが難しい場合がある。

増加している重複障害に対する介入方法を導くきっかけとなるかもしれない

内部障害における報告の例

長期的な経過を観察した症例

- 長期的に経過を観察している研究は多くない
→ 心臓、呼吸リハビリテーションなどで
急性期、回復期、維持期の経過を追跡した症例

内部障害における報告の例

新たな診断、治療、リハビリテーションアプローチ

- ・ 内部障害リハビリヘロボットなどの福祉機器を導入した症例
- ・ 骨格筋電気刺激の実施例
- ・ 新たな評価方法を用いた介入の報告
(6分間歩行試験時の近赤外分光法測定など)

必ずしもポジティブな結果である必要はない、
新たな課題などが抽出されていることも重要な
研究意義となり得る

内部障害における報告の例

新たな診断、治療、リハビリテーションアプローチ

- 新たな治療方法の導入とリハビリテーションの相乗効果に関する検討
(高流量鼻カニューラ (High-flow nasal cannula: HFNC) ・
肺内パーカッションベンチレータ、など)
- 最適介入期間が明らかでない症例
(術後の介入効果は明らかであるが、最適介入期間は明らかでない
肺切除術後の呼吸リハビリテーションなど)

データ収集のポイント

- できるだけ客観的な評価結果を残すように工夫する
 - 経時的変化、日内変動、介入前後の即時的な反応評価など
(実験デザインにより適切な評価項目・タイミングを決定する)
 - 計測方法を工夫して数値化する

⇒ しかし

- 客観的評価を実施できない場合も存在する。
- 客観的な評価が困難な場合、例えば投薬により鎮静状態である、介入以前の状況が掴めないなどにおいては、執筆時に具体的に記載する。
- 評価の困難さ 자체が問題提起になるのでは？

症例検討の構成

「理学療法-臨床・研究・教育」執筆要項より

- 標題
- 著者名
- 要旨
- キーワード
- 本文
 - ①はじめに（序論、緒言） 対象を選択した理由や根拠を記述する。
 - ②症例記述（症例紹介）
 - ③考察 過去の報告との類似点や相違点について比較検討を行い考察する。
今後の治療の展開・方針転換や研究への広がりがある場合は、
それらの提案も述べる。
 - ④まとめ 症例を通じて明らかになった点を200～300字で簡潔に記述する。
 - ⑤謝辞
- 引用文献
- 症例報告の内容によっては「研究論文」の構成で本文作成を指示する場合
がある

客観性

- 研究目的が明確に述べられている
- 実験や計測の条件, 方法が明確に述べられている
- 論旨の展開が明確である
- 研究成果の意義が明確に述べられている
- 従来の研究との関連が明確に述べられている
- 関連する文献が適切に引用されている
- テーマとする症例の一般的な経過やリハビリテーション

有用性・新規性

- 臨床的, 学術的, 教育的, 社会的ニーズに対し有用な情報を示している
- 実用化, 改良や改善による成果を示している
- 既存の理論や方法を体系化, 一般化または再構築している
- 新しい発見, 知見を示している
- 新しい問題領域, 新しい理論, 方法論, 手法などを提案している

最後に

症例報告は、

- 著しい効果がみられることだけが重要なのではない
- 新たな課題が抽出されること 자체が研究意義となる
- 抽出された課題の解決方法の提示
- 提案した解決方法についての効果の評価

いざれも投稿する価値がある!!